



東京三弁護士会多摩支部主催シンポジウム

「排除」を排除！？

～誰もが安心して暮らせる社会を考える～

2024年

12月7日 **土** 14:00～17:00

@東京三弁護士会多摩支部 ひまわりホール
(東京都立川市緑町7-1立飛ビル8号館2階)



ZOOMウェビナー

第1部：基調講演

講師：五十嵐太郎さん（東北大学大学院教授）



五十嵐さん

第2部：パネルディスカッション

<パネリスト>

五十嵐太郎さん

江口友子さん（神奈川県平塚市議）

田中のり子さん（生活困窮者支援りぼん代表）



江口さん



田中さん



こちらから要事前申込
(11/29まで・手話通訳
希望の方は、11/21まで)

参加無料
手話通訳付

—排除ベンチをきっかけに公共空間のあり方を考えましょう—

いつのころからか、私たちが暮らす町でも、公共空間からベンチが少なくなり、代わりに北欧風のかわいらしいオブジェが置かれることが増えました。

しかし、そのオシャレなオブジェには、人々が集まり、座って話をしたり、おにぎりを食べたり、お酒を飲んだりすることはできません。また、残された少ないベンチには、手すりが設置され、仕切りを付けられ、鉾が打たれて、疲れた人が体を横たえて休むことはできません。

そこに「ホームレスは利用禁止」と書かれた標識が掲げられているわけではありませんが、これらは明確にホームレスの人を排除するための装置として機能しています。ホームレスの人が集まることを嫌う人たちがいます。子どもが使う公園にいるホームレスの人を怖がる人たちもいます。そのような人たちの声を受けて、あるいはそれを忖度して、こうした「排除ベンチ」は誕生しました。

排除されたホームレスの人は、消えていなくなるわけではありません。どこか別の場所で生きていくこととなります。その行く先でも新しい排除が起きるかもしれません。では、どうすればいいのでしょうか。どう考えたらいいのでしょうか。

今回のシンポでは、見えにくくソフィスティケートされた、しかし社会を覆い人々が内面化してしまっている社会的弱者に対する排除を可視化し、それを克服して社会が連帯するための知恵を出し合うきっかけを作りたいと思います。

公共空間に何を置きたいか、公共空間がどんな場であって欲しいかということは、私たちがどんな社会に住みたいかということに連なっています。本来、広場は、様々な人々が自由に集まり、時には、飲食をしながら、様々な話題について話す、民主主義を支える場であったはずで、どのような属性の人も、民主主義から排除されることがあってはならないのではないのでしょうか。

このような問題意識から、第1部では、排除ベンチに知見のある研究者の五十嵐太郎さんに基調講演をお願いしました。第2部では、排除ベンチの排除に成功した地方議員の江口友子さん、多摩地域で、生活困窮者の支援活動をしている田中のり子さんをパネリストに加え、それぞれの立場の実践をお聞きし、日頃感じている問題意識等を共有するとともに、活発な議論を行う予定です。社会的排除のあり様に目を向け、誰もが安心して暮らせる共生社会について考える機会となれば幸いです。

**リアル会場はこちら（東京都立川市
緑町7-1立飛ビル8号館2階）**



①会場でのリアル参加、②オンライン（ZOOMウェビナー）参加ともに参加は無料ですが、席に限りがあり、いずれも、事前申し込みが必要です（先着順）。下記のQRコードを読み取ってお申し込み下さい。手話通訳をご希望の方がいらっしゃれば、リアル会場にて対応いたします。申込時に利用希望をお知らせください。

